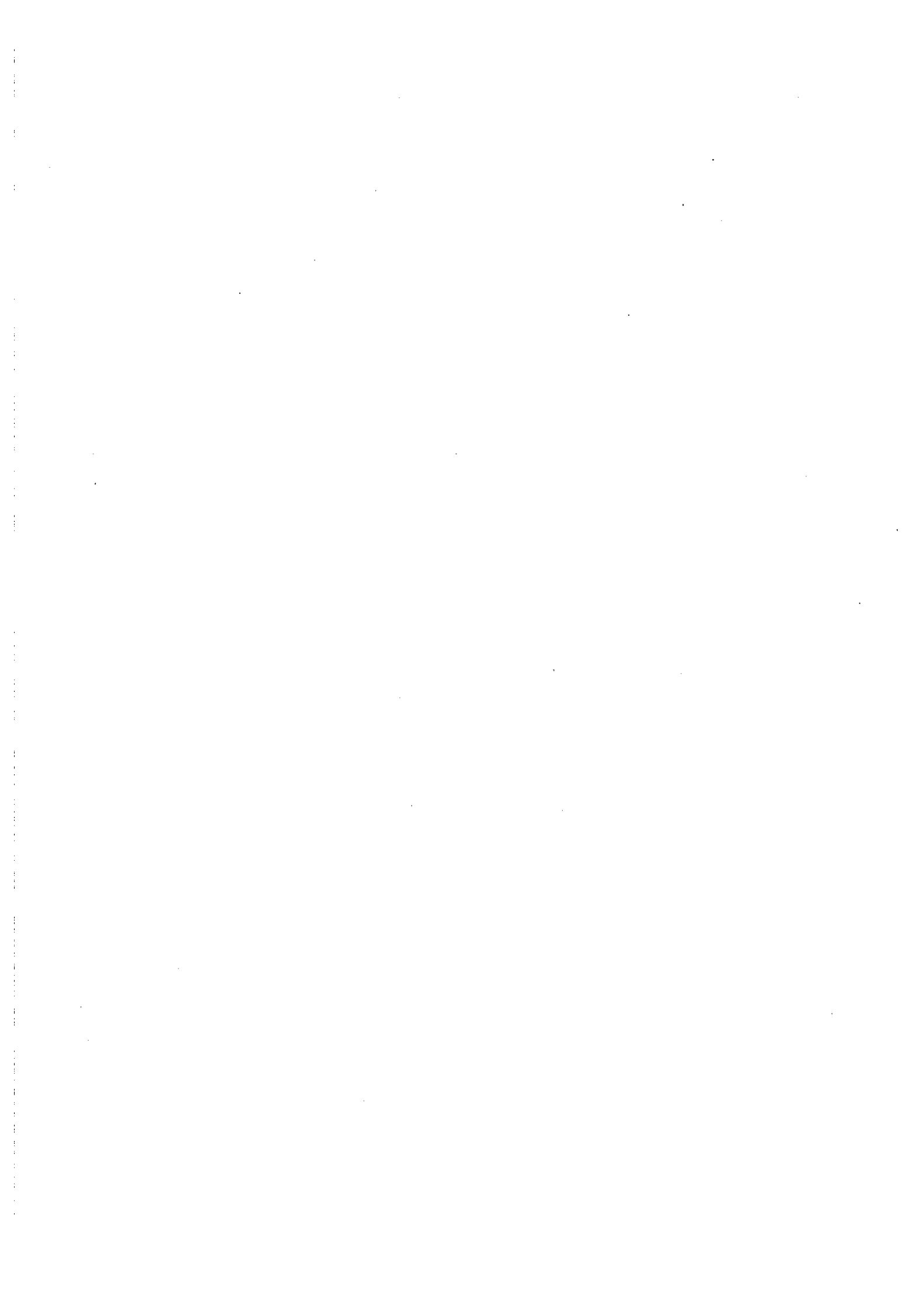


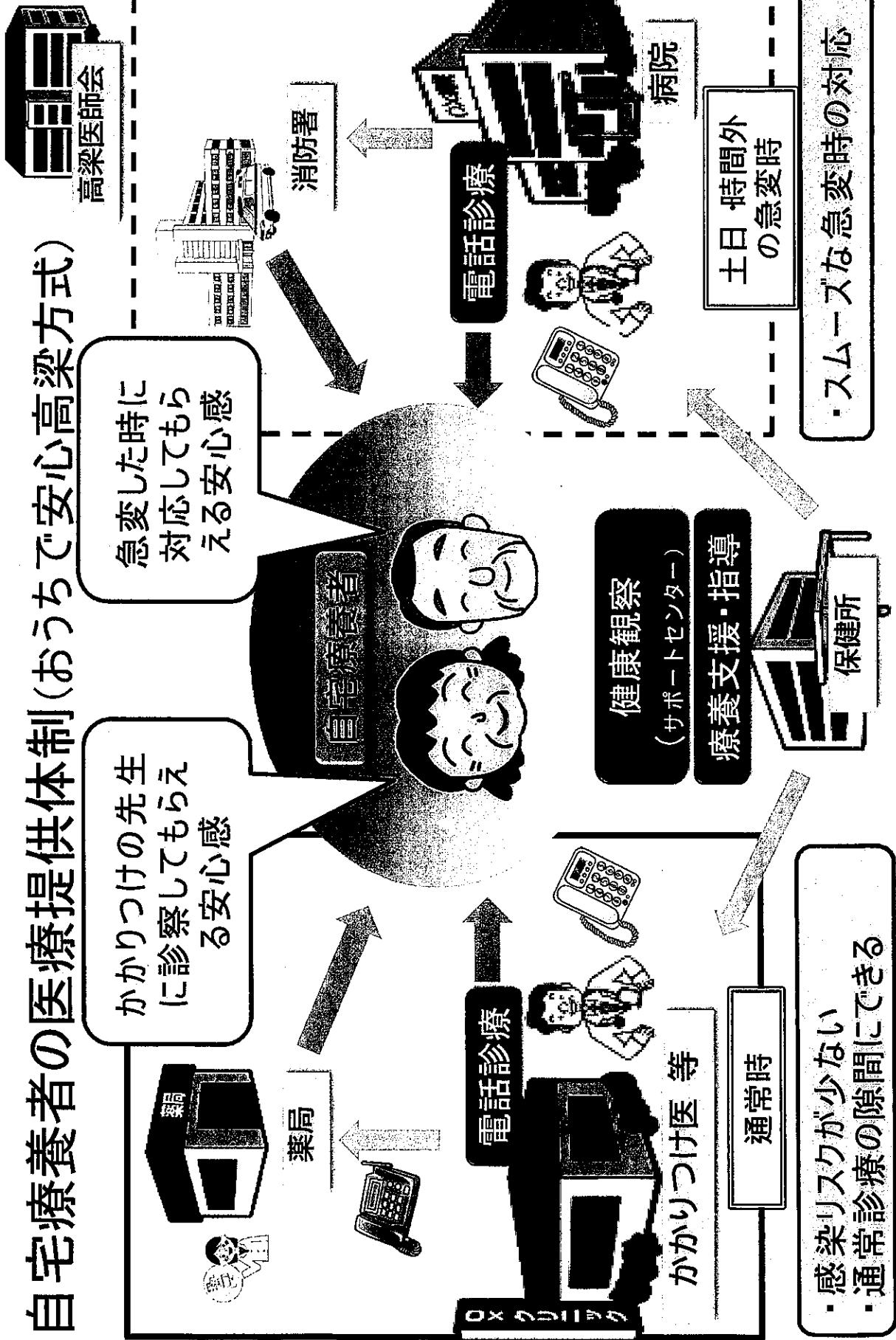
令和3年度 第2回高梁市医療計画検討委員会

参考資料集

(令和4年3月7日)

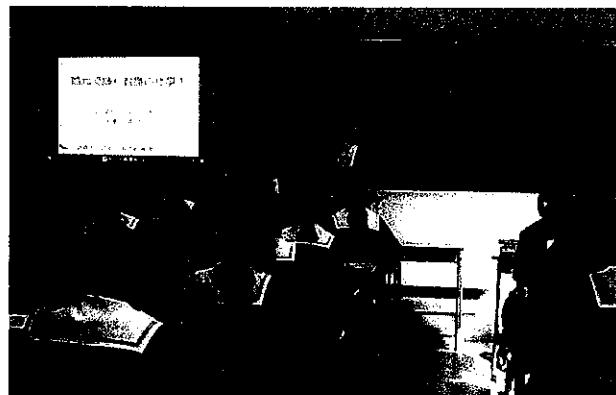


自宅療養者の医療提供体制(おうちで安心高梁方式)



方谷学

中山間地高梁の医療（仲田医院 仲田先生） 地域でかがやく看護のシゴト（高梁中央病院 青木看護師）



ここがスゴイぜ！！高梁の地域医療（高梁高等学校 2年次生）

**ここがスゴイぜ！！
高梁の地域医療**

● 大杉病院 ●
1・2科目の診療科を有し、救急告示病院の指定を受けています。
特に回復期リハビリに注目を置いて診療を行っています。
今月2年2月から新たに介護医療院を開院しました。
又支援・要介護の方のリハビリ療法を充実しています。
電話 (0866) 22-5155

● 高梁中央病院 ●
2・6科目の診療科を有し、内科と外科では、オンラインで診療と画像ができます。急性期から慢性期までの質の高い医療を提供し、他の医療機関との連携を密にして患者さんの選択を尊重しています。地域の災害備蓄病院に指定され医療にはヘリコプターがあります。新たに介護医療院の開院も行いました。
電話 (0866) 22-3636

● たいようの丘スピタル ●
東の認知症医療センターの指定を受けている精神科の病院です。
うつ病、神経症、既往歴調査、認知症など様々な精神疾患を得意として治療を行っています。
外来治療としてのデイケアや訪問看護での相談サポートを行い、お見な医療を提供してくれます。
電話 (0866) 22-2217

● 成羽病院 ●
1・0科目の診療科を有し、回復期から慢疾期までの幅広い患者に対して診療を行っています。日治休病院として、へき地域医療、救急医療とともに地域包括型システムの更にして構成し、地域の皆さんに親しまれ、信頼される病院を目指し、医療の児童向上に努めています。
電話 (0866) 42-3111

右記：高梁高等学校<佐々木洋、小林由香、片山紀美>

～高梁市の地域医療の取り組み～

基本方針1：住民の医療需要が変化しても適切な医療が受けられること
基本方針2：医療従事者が誇りを持って働ける、持続可能な地域医療
基本方針3：子どもを育み育てやすいまちを目指した出産・子育てサポート体制の整備
基本方針4：地域での自立した生活に寄り添う基盤の整備

基本方針1：①市内医療資源の最適配置に向けた医療機関等の連携強化
②医療提供体制の充実に向けた新たな政策的対応の検討
③市内医療機関が一體となった市外医療機関との連携・バリアフリ
基本方針2：①医療従事者の労働環境改善
②医療従事者のコミュニケーション改善
③医療従事者の能力開発・育成機会の創出
④医療従事者確保に向けた検討

基本方針3：①市民の方針や人権ビジョンを踏まえた政策的対応の検討
基本方針4：①地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の質と強化
②医療自立に立った説明の強化

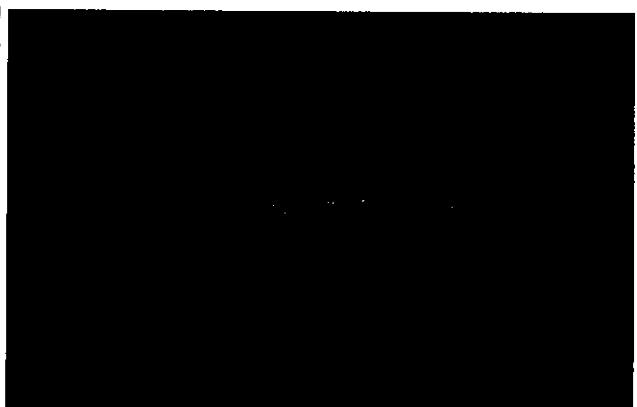
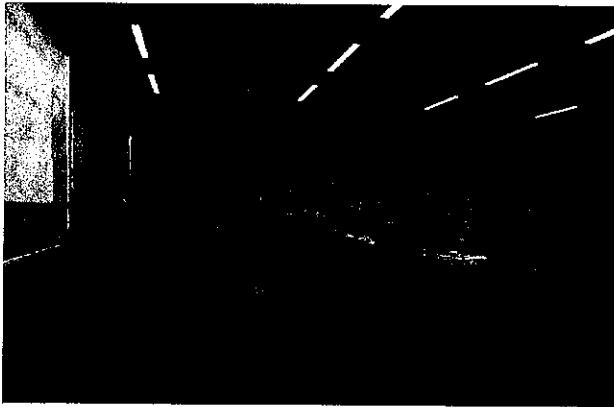


配布先

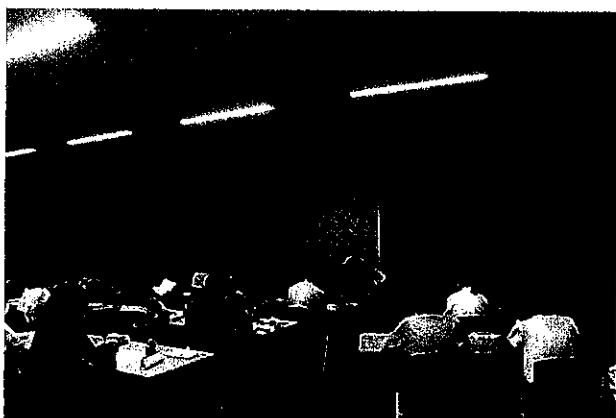
区分	名 称
高梁市医療機関	池田医院、大杉病院、尾島クリニック、桑内耳鼻咽喉科医院、た いようの丘ホスピタル、有漢診療所、川上診療所、成羽病院、備 中診療所、高梁整形外科医院、高梁中央病院、仲田医院、西医院、 野村医院、ふじかわ眼科高梁分院、藤本診療所、まつうらクリニ ック、三村医院、渡辺医院
吉備中央町（賀陽町） 医療機関	賀陽クリニック、木戸医院、吉備高原ルミエール病院 吉備高原医療リハビリテーションセンター
行政機関	備北保健所、高梁市、吉備中央町、高梁市消防本部

研修会

多職種連携研修会（ハイブリット開催）



摂食・嚥下研修会（対面開催）



皮膚・排泄ケア研修会（ハイブリット開催）



高梁市看護師等奨学生貸付状況について

年度	新規貸付者	当該年度就職者	うち市内就職者		貸付辞退者数
			うち市内就職者	うち市外就職者	
H22年度	2				
H23年度	2				
H24年度	6				
H25年度	5	2	1		
H26年度	5	2	2		2
H27年度	1	8	5		1
H28年度	1	5	3		
H29年度	3				2
H30年度	5	2	2		
R元年度	5	1	1		
R2年度	2	1	1		1
R3年度	6(4)	5	4		
	43(4)	26	19		6

※令和3年度の数値は令和4年3月7日現在。
※()は医療機関の貸付分。

- 貸付修了者32名のうち、19名（約59%）が市内で就職。
(令和3年度(は約80%が市内就職))
- 貸付者43名の所属学校：
順正高等看護福祉専門学校 20名
吉備国際大学 12名
その他 11名

令和3年度

- 市奨学生制度の利用は2名。医療機関の奨学生制度の利用は4名。
(高梁中央病院2名、たいうの丘ホスピタル：1名、成羽病院：1名)

令和4年度

- 要望調査を実施し、9名の事前相談あり。

令和5年度以降

- 1名の事前相談あり。

(5月号)

高梁2025 “地域医療はまちづくり”⑩

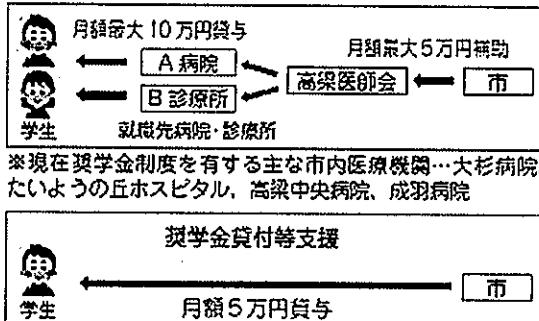
「高梁 2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

医療従事者的人材確保に向けた取り組みについて

高梁市は、医療従事者の養成を図り、市内で働く医療従事者の確保・医療の質の向上を図るため、平成 21 年度から看護師などの奨学金制度、平成 27 年度から医学生の奨学金制度を実施してきました(令和 3 年 3 月末時点までに看護師など延べ 37 人、医学生延べ 5 人へ貸し付け)。また、現在も続く看護師不足・高齢化を考慮し、令和 2 年度に高梁市看護師等確保検討部会を立ち上げ、高梁看護師等奨学金事業について協議し、既存制度の拡充を行いました。市内の医療機関などに就職を希望する人は積極的に活用してください。

令和 3 年度からの制度の拡充・見直し点

- ①保健師および看護師を目指す学生で、すでに就職を希望する医療機関などが決まっている場合には、当該医療機関などの奨学金を「月額最大 10 万円まで」貸与可能。(手続きは病院を通して一元化)
- ②從来の看護師などの奨学金の貸与月額を「月額 4 万 4000 円 ⇒ 5 万円」に増額。(年度の途中で就職先が決まった人は①への移行も可能です)



市ウェブサイト「高梁 2025 ~地域医療の高梁モデル構築に向けた 100 の検討とアクション~」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

問介護医療連携課 ☎ 21-0304 / (一社)高梁医師会 ☎ 22-3801



(7月号)

高梁2025 “地域医療はまちづくり”⑪

「高梁 2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

市内で働く地域枠医師について

岡山県は、岡山大学などの医学部に「地域枠」を設け、卒業後に県内で医師が不足している地域へ「地域枠医師」を派遣する制度を実施しています。派遣先となる医療機関は、県が教育指導体制や地域の受け入れ体制などを総合的に評価した上で、医師とのマッチングを行っています。高梁市内の医療機関にも定期的に地域枠医師が派遣されており、現在 2 人が在籍しています。

地域枠医師として働く遠藤福力さん(令和 3 年度新規派遣)

4 月から、地域枠医師として高梁中央病院で勤務しています。私は岡山市出身で、岡山大学の医学部を卒業しました。医師を目指すに当たり、急性期に対応する大きな病院で手術を学ぶだけでなく、地域の病院で地域医療についても学びたいと考え、地域枠を希望しました。診察を通して市民の皆さんのお話を伺いながら、地域医療の現状を肌で感じ、貴重な経験をさせていただいております。一人一人に寄り添った医療を心掛けて勤務していくので、よろしくお願ひいたします。



遠藤福力 医師

高梁市の医学生奨学金制度の令和 3 年度奨学生を募集しています。制度の利用を希望する人は、市ウェブサイトをご覧いただくか、介護医療連携課までお問い合わせください。



問介護医療連携課 ☎ 21-0304 / (一社)高梁医師会 ☎ 22-3801

(9月号)

高梁2025 “地域医療はまちづくり”^⑫

「高梁 2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

潜在看護師さんへ ～高梁市内で少しづつ働いてみませんか～

新型コロナウイルスの感染拡大により医療従事者の負担増加は深刻な状態となり、コロナ禍以前から看護師が不足・高齢化している高梁市においても同様の状況です。こうした中、資格を持ちながら現在は特定の組織に籍を置いていない「潜在看護師」の復職支援などが全国で行われています。岡山県でも、離職により最新の知識や看護技術に不安がある潜在看護師に対する復職支援の取り組みとして、県ナースセンターによる技術支援講習会を実施しています。

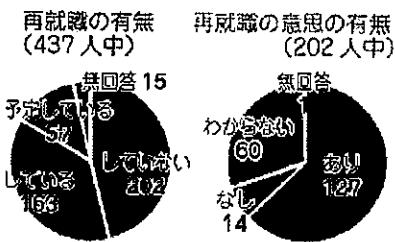
高梁市では、「高梁かんごねっと」で、市内医療機関などへ就職を希望する人への相談対応や県ナースセンターへの登録支援、スキルアップ研修会などを行っています。もう一度看護師として働きたいなどの希望をお持ちの方は、高梁かんごねっと(☎ 21-3801)へご相談ください。



令和元年に行われた研修の様子

離職した看護師の再就職の意向

県看護協会などが実施した調査では、県内で令和2年度に離職した人のうち、看護職として再就職したいという意思がある人は約6割。結婚・予育てなどで一度離職しながらも、看護職としてまた働きたいという意思がある人が多くいることがうかがえます。



当サイト「高梁 2025～地域医療の充実モデル構築～」内の「Q&A」欄とアソシションにてこれまでの取組内容などを掲載しています。

問介護医療連携課 ☎ 21-0304 / (一社)高梁医師会(高梁かんごねっと) ☎ 22-3801



(11月号)

高梁2025 “地域医療はまちづくり”^⑬

いい 看取り

11月30日は「人生会議の日」

もしものときのために「人生会議」始めてみませんか

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります

もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、事前に考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みを「人生会議(ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」と呼びます。この数年は、コロナ禍のため入院時の面会制限などもあり、最期の時間を自宅で過ごすことを選択する人が増えています。「人生会議」を行う時期に「早すぎる」はありません。「縁起でもない」と敬遠するのではなく、元気なうちに話し合ってみましょう。

在宅医療を知っていますか

通院が難しくなったときや、退院後に自宅などでも医療を受けることができます。困ったときのために、前もってかかりつけの医師やケアマネジャーと相談し、さまざまな選択肢を見つけておきましょう。

在宅で受けられる主な医療サービス

訪問診療、訪問歯科診療、訪問薬剤指導、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問栄養食事指導など



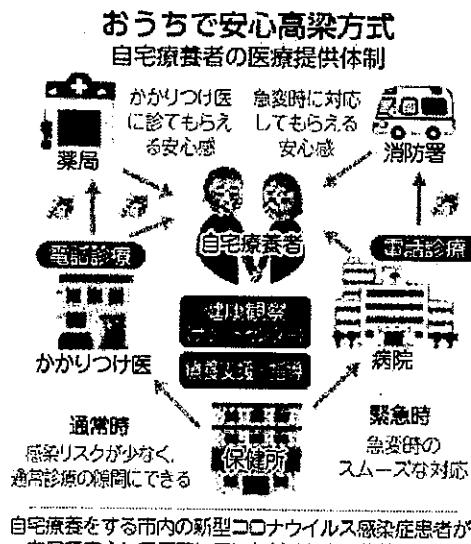
訪問リハビリテーションの様子。
在宅でもさまざまな医療サービスを受けすることができます

当サイト「高梁 2025～地域医療の充実モデル構築～」内の「Q&A」欄とアソシションにてこれまでの取組内容などを掲載しています。

問介護医療連携課 ☎ 21-0304



高梁2025 “地域医療はまちづくり”⑭



自宅療養をする市内の新型コロナウイルス感染症患者が、在宅で安心して療養していただくための仕組みです。

「高梁2025」は、持続可能な地域医療モデルの構築に向けた取り組みの総称です。

「コロナ禍で安心できる自宅療養体制を整備」

新型コロナウイルス感染症の第5波流行時には、多くの人が自宅療養を余儀なくされました。市内の感染拡大の防止のため、高梁医師会では、ワクチン接種の協力をはじめ、日々の感染対策など、尽力されています。さらに、県内の都市医師会の取組みとしては先駆けとなる、関係機関が一体となつた自宅療養者に対する医療提供体制「おうちに安心高梁方式」を構築し、第6波の感染拡大に備えています。

それぞれの役割

- 保健所……在宅療養者の毎日の健康支援と生活支援、安否確認**
- かかりつけ医……保健所の依頼を受けて、電話診療を実施**
- 病院……時間外・休日などにかかりつけ医、保健所からの情報を受け電話診療を実施**
- 薬局……かかりつけ医からの要請により、電話での服薬指導・薬の処方を実施**
- 消防署……緊急時に備え、症状悪化時の緊急搬送に対応**

ウェブサイト「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

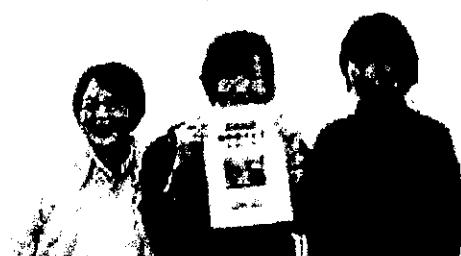
問介護医療連携課 ☎ 21-0304 / (一社)高梁医師会 ☎ 22-3801



(2月号)

高梁2025 “地域医療はまちづくり”⑮

そこで岡山県栄養士会高梁支部は、地域の食形態の「見える化」を図るため、食形態の物性や特徴が各施設間で確認できるように「高梁地区食形態マップ」にやんコードーを作成しました。市の病院や高齢者施設での食形態の統一を図り、



岡山県栄養士会高梁支部のメンバーと、実際に作成した高梁地区食形態マップ

「人と人との繋がりが高梁の食の未来を創造する」
加齢や薬の副作用、病気の影響などによって、食べることや飲み込むことが困難になることがあります。安全に食事を楽しんでもらうためには、食べる能力に合った食形態を提供することが大切です。そのため、病院や高齢者施設では、それぞれ多様な形態での食事が提供されていますが、食事の硬さや大きさ、形態の呼称（「なめらか食」「ムース食」「ソフト食」など）が各施設によって異なっている状況でした。

地域の食形態を見える化へ

ウェブサイト「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

問介護医療連携課 ☎ 21-0304



高梁2025 “地域医療はまちづくり”^⑯

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体創の構築に向けた取り組みの総称です。

かかりつけ医、じやあか?

かかりつけ医は、「健康新たんじ」と何でも相談でき、必要なときは専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師です。病院や診療所の規模や、内科医などの特定の診療科目だけに限定するものではありません。



かかりつけ医を持つメリット

日々の健康状態、生活習慣、持病などを把握しているかかりつけ医を持つことで、①病気や症状、治療法について的確な診断やアドバイスを受けることができ、②症状に応じて専門の医師・医療機関への紹介が可能になり、③病気の予防、早期発見・治療につなげることができます。

また、かかりつけ医は地域包括ケアシステムの推進、新型コロナウイルス感染症への対応などの多くの場面で、地域で安心して医療を受けるためにかかりつけ医は重要な役割を担っています。

岡山県医師会認定かかりつけ医制度

岡山県医師会では、かかりつけ医のスキルの向上と標準化を目的として、生活習慣病や認知症、服薬管理などをまとまな研修会を開催し、研修を受講した医師を「認定かかりつけ医」として認定しています。市内の病院や診療所の医師たちも認定を受け、地域医療を支えるかかりつけ医として活躍しています。

市ウェブサイト「高梁2025へ地域医療の高梁モデル構築に向けた100の策劃とアクション～」にこれまでの経験の内容などを掲載しています。

④介護医療連携課 ☎ 21-0304



岡山県医師会 移動会長室



正しい薬の飲み方

～多剤、重複投与について～

令和4年

2/1(火)

14時00分～16時00分

参加方法

・会場参加：裏面の参加申込書で
FAX送信

・Zoom参加：裏面のID・URL等
でネット登録

〆切

1月21日(金) 会場・Zoom共

対象者

服薬管理をする高齢者家族、
在宅介護従事者、施設介護従事者等
<定員(ハイブリッド開催)>

会場：30名 Zoom：50名

高梁市役所 3階大会議室

(高梁市松原通2043)

※会場では、コロナ感染防止対策にご協力ください。

<<内容>>



「新型コロナウイルス感染症と岡山県医師会活動」

岡山県医師会 会長 松山 正春 (14:05~14:25)



「介護保険制度における医療介護連携の必要性

～かかりつけ医かかりつけ薬局からの情報の活用法～」

岡山県介護支援専門員協会

会長 堀部 徹 (14:25~14:45)

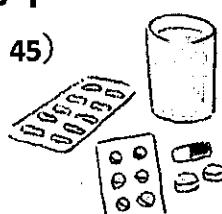


「なぜ薬は増えるが減らないのか

～カラクリを知り薬剤師を活用しよう～」

岡山県薬剤師会 常務理事 寺井 竜平

(14:45~15:45)



質疑応答

主催：岡山県医師会

共催：高梁市、岡山県薬剤師会、高梁医師会



再放送 11ch

キビケーブルテレビ録画放送 令和3年度

高梁市医療・介護市民公開講座×健康福祉のつどい講演

市内の在宅医療・介護についての取組みや介護予防についての講演を録画放送します。

再放送日

※11チャンネルは河川監視カメラの映像をみることができるチャンネルです

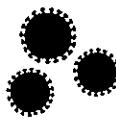
令和4年2月26日～3月26日の期間 ピケーブルテレビ 11 チャンネル
毎週土曜日 午後8時00分～午後9時30分

内 容

第1部：高梁市内医療機関の紹介

◇「高梁市国民健康保険成羽病院の紹介」

講師：成羽病院 紙谷晋吾 院長



◇「新型コロナウイルス感染症に関する

成羽病院の取り組み：



講師：成羽病院 藤原洋平 内科医師



◇「医療介護連携と人生会議(ACP)」

講師：成羽病院 鶴見尚和 副院長

第2部：「健康寿命の延ばし方教えます！」



～高梁市におけるフレイルの現状と



予防のための運動紹介～



講師：吉備国際大学社会科学部スポーツ社会学科

山口英峰 教授、國佐 葉 準研究員

主 催 高梁市在宅医療・介護連携推進協議会／高梁市
共 催 一般社団法人高梁医師会

問合せ先
(高梁市役所)

介護医療連携課 Tel.21-0304
健康づくり課 Tel.21-0267

令和3年度

R3/4/1	高梁市看護師等奨学金事業（補助金）を新設
R3/4/21	市内2病院、医師会、市で県内看護師養成学校5校（県北）を訪問
R3/4/23	吉備国際大学看護学科4年生（40名）を対象に高梁市の医療の取組み説明
R3/4/27	市内2病院、医師会、市で県内看護師養成学校6校（県南）を訪問
R3/5/2	新成人対象者に対して、奨学金チラシを送付（約200部）
R3/5/15	広報紙5月号「奨学金制度」⑩
R3/5/24	令和3年度第1回高梁市医療計画検討委員会を開催
R3/6/30	市内病院の勤務10年程度の看護師を対象にリーダー研修会1回目を開催
R3/7/15	広報紙7月号「市内で働く地域枠医師について」⑪
R3/7/15	広報紙7月号で連携協定先のWEB体験教室の周知
R3/7/28	摂食・嚥下研修会を開催（約70名参加）
R3/8/30	令和3年度第1回高梁市医療機関連携推進部会を開催
R3/9/6～12	行政放送「AEDの設置について」⑫
R3/9/15	広報紙9月号「潜在看護師さんへ～高梁市内ですこしずつ働いてみませんか～」⑬
R3/9/15	広報紙9月号で連携協定先への献血への協力を周知
R3/10/21	方谷学（Welcome方谷先生）として医療に関する講義を高梁高校で実施
R3/10/22	令和3年度第2回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会を開催
R3/10/27, 11/1	高梁高校、城南高校、日新高校、井原高校、興譲館高校、新見高校、共生高校へ看護師等奨学金PR
R3/10/28	皮膚・排泄研修会を開催（約60名参加）
R3/11/8	晴れやかネット ケアキャビネット説明会を開催（20名参加）
R3/11/15	広報紙11月号「11月30日は良い看取り・看取られの日」⑭
R3/11/15	令和3年度第2回高梁市医療機関連携推進部会を開催
R3/11/25	方谷学として医療に関する講義を高梁高校で実施（介護医療連携課職員）
R3/12/7	市内病院の勤務10年程度の看護師を対象にリーダー研修会2回目を開催
R3/12/18	令和3年度第1回多職種連携研修会（栄養士会）を開催（約80名参加）
R3/1/9	新成人対象者に対して、奨学金チラシを送付（約200部）
R4/1/15	広報紙1月号「コロナ禍で安心できる自宅療養体制を整備」⑮
R4/2/1	岡山県医師会主催の「正しい薬の飲み方」講演会をハイブリットで開催（約50名参加）
R4/2/9	連携協定先の産学官WEBイベント（KMSメディカル・アーク2022）に出演
R4/2/14	川崎学園理事長と市長、教育長の意見交換会（川崎学園）
R4/2/14	令和3年度第3回高梁市医療機関連携推進部会を開催
R4/2/15	広報紙2月号「地域の食形態を見える化へ！」⑯
R4/2/19	令和3年度高梁市医療・介護市民公開講座×健康福祉のつどいを放送（成羽病院の紹介）
R4/3/7	令和3年度第2回高梁市医療計画検討委員会を開催

高梁市医療計画取り組みまとめ（案）

取組事項	取組内容等	担当部署	医療機関間の役割分担	医療機関間の役割分担
1 生民の医療需要が変化する方向生じる医療機関の役割分担	[1-1] 市内医療機関の実務者や教育機関等の人物が、各医療機関の特性・運営状況を含めた部会を開催して定期的に開催し、市内医療機関の関係者等を交えた会議を、継続して定期的に開催していく。	市内医療機関の実務者や教育機関等の人物が、各医療機関の特性・運営状況を含めた部会を開催して定期的に開催するところにかかるべきで、市内医療機関の配備不足による医療機関間の連携強化等のため、市内医療機関等の連携強化が進捗強化して取り組むべき医療機関等への連携強化が進捗強化化します。	市内医療機関の実務者や教育機関等の人物が、各医療機関の特性・運営状況を含めた部会を開催して定期的に開催するところにかかるべきで、市内医療機関の配備不足による医療機関間の連携強化等のため、市内医療機関等の連携強化が進捗強化して取り組むべき医療機関等への連携強化が進捗強化化します。	R6(2024)
2				R4(2022)
3				R5(2023)
4				R4(2022)
5				R5(2023)
6				R4(2022)
7				R5(2023)

重点項目	評価	取組内容等	担当部署	医療機関間の役割分担
○	市内医療機関の実務者等を交えた会議を、継続して定期的に開催していく。	市内医療機関の実務者や教育機関等の人物が、各医療機関の特性・運営状況を含めた部会を開催して定期的に開催するところにかかるべきで、市内医療機関の配備不足による医療機関間の連携強化等のため、市内医療機関等の連携強化が進捗強化して取り組むべき医療機関等への連携強化が進捗強化化します。	市内医療機関の実務者や教育機関等の人物が、各医療機関の特性・運営状況を含めた部会を開催して定期的に開催するところにかかるべきで、市内医療機関の配備不足による医療機関間の連携強化等のため、市内医療機関等の連携強化が進捗強化して取り組むべき医療機関等への連携強化が進捗強化化します。	R6(2024)
○	市内医療機関の実務者等を交えた会議を、継続して定期的に開催していく。	市内医療機関の実務者や教育機関等の人物が、各医療機関の特性・運営状況を含めた部会を開催して定期的に開催するところにかかるべきで、市内医療機関の配備不足による医療機関間の連携強化等のため、市内医療機関等の連携強化が進捗強化して取り組むべき医療機関等への連携強化が進捗強化化します。	市内医療機関の実務者や教育機関等の人物が、各医療機関の特性・運営状況を含めた部会を開催して定期的に開催するところにかかるべきで、市内医療機関の配備不足による医療機関間の連携強化等のため、市内医療機関等の連携強化が進捗強化して取り組むべき医療機関等への連携強化が進捗強化化します。	R4(2022)
○	市内医療機関の実務者等を交えた会議を、継続して定期的に開催していく。	市内医療機関の実務者や教育機関等の人物が、各医療機関の特性・運営状況を含めた部会を開催して定期的に開催するところにかかるべきで、市内医療機関の配備不足による医療機関間の連携強化等のため、市内医療機関等の連携強化が進捗強化して取り組むべき医療機関等への連携強化が進捗強化化します。	市内医療機関の実務者や教育機関等の人物が、各医療機関の特性・運営状況を含めた部会を開催して定期的に開催するところにかかるべきで、市内医療機関の配備不足による医療機関間の連携強化等のため、市内医療機関等の連携強化が進捗強化して取り組むべき医療機関等への連携強化が進捗強化化します。	R5(2023)
○	令和3年度から実施している奨学金の補助制度の公表を進め、医療従事者の確保に努めている。	看護師等奨学生度の延長として、市内医療機関の実務者や教育機関等の人物が、各医療機関の特性・運営状況を含めた部会を開催して定期的に開催するところにかかるべきで、市内医療機関の配備不足による医療機関間の連携強化等のため、市内医療機関等の連携強化が進捗強化して取り組むべき医療機関等への連携強化が進捗強化化します。	看護師等奨学生度の延長として、市内医療機関の実務者や教育機関等の人物が、各医療機関の特性・運営状況を含めた部会を開催して定期的に開催するところにかかるべきで、市内医療機関の配備不足による医療機関間の連携強化等のため、市内医療機関等の連携強化が進捗強化して取り組むべき医療機関等への連携強化が進捗強化化します。	R4(2022)
○	市内医療機関での運動、出向、派遣の合意等について、医療機関連携部会等で情報の共有を行っていく。	医療機関連携性部会での情報共有のうちから病院への運動の場合は、返還不要な看護師等の奨学生度を令和3年度より実施している。	医療機関連携性部会での情報共有のうちから病院への運動の場合は、返還不要な看護師等の奨学生度を令和3年度より実施している。	R5(2023)
○	公掌診療所について、現状の診療状況をみながら、必要に応じて配慮していく。	有料診療所について、建物の老朽化の解消に伴い、生民の方方が公掌診療所から病院への市内医療機関の医療従事者との連携が成立した。診察室からの運動の場合は、返還不要な看護師等の奨学生度を令和3年度より実施している。	有料診療所について、建物の老朽化の解消に伴い、生民の方方が公掌診療所から病院への市内医療機関の医療従事者との連携が成立した。診察室からの運動の場合は、返還不要な看護師等の奨学生度を令和3年度より実施している。	R4(2022)
○	定期的に市内医療機関の小児医療（教育）の状況を把握し、市民に向かって周知を続けていく。	市内病院での小児医療（教育）の実態を調査し、時間別の救急件数を踏まえて、小児医療時間の必要性を検討したうえで、令和元年度時点の診療時間どおりとするところとしている。市ウェBSITEへ#8000の情報を掲載している。	市内病院での小児医療（教育）の実態を調査し、時間別の救急件数を踏まえて、小児医療時間の必要性を検討したうえで、令和元年度時点の診療時間どおりとするところとしている。市ウェBSITEへ#8000の情報を掲載している。	R5(2023)
○	地域社会医療機関の配置希望をしていく。継続して総合診療科の配置を実現する取り組みについて検討する。	因山厚生病院では、高齢・新規末までに自慢医師教養を平成28年度から9名を確保する予定とされており、実際で高齢中央病院など成歩病院では、令和3年度まで切れ目なく構築して地域医師が配置されている。JR岐阜駅付近修復での専攻の希望、将来的な講習会での開催の希望。	地域社会医療機関の配置希望をしていく。継続して総合診療科の配置を実現する取り組みについて検討する。	R6(2024)

8	現状評価と基本方針策取組みの方向性	取り組み方針	今後の取組み	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
9	診療科の在庫室等の配置位置付ける	市内で検討してほしい診療科については、高梁市医療計画では、個人科系が上位であるか、全国的な傾向から、医療従事者の確保を目標としている。市内人科系の開設には、医師の人手を確保するための協定書や、看護師の人手を集めることが最も条件になると市内では産科でも医療従事者の確保には課題となっている。	重点事項 評価 診療科の元素については、需要・社会情勢・将来人口や出生数等を踏まえ、検討していく。 医療従事者の確保を目指していく。	○	-	-
10	託職の共有・共同購入	同一業者からの医療材料の購入できる状況になっているが、実際の共有・共同購入までには至っていない。高梁市内業局で、高梁中央病院、大杉病院の災害用の医療品を保管している。	県内の地域医療連携性進歩への取り組み状況について研究する。	○	-	-
11	運営体制構築をするための検討 医療機器のスタッフの理解深化	各医療機関で医療計画検討委員会等での検討内容の共有を行うこととしている。	引き続き各医療機関で医療計画検討委員会等での検討内容について、各医療機関の医療従事者に対して、情報の共有を行つ。	○	-	-
12	病床数の検討	令和元年度と令和2年度で2つの医療機関で介護医療院への転換を行つた。県立病院は116床の減となり、高梁市内での一般病床数は309床となつた。平成30年度の医療計画策定期間の425床と比較して、27%の減となつていて、感染症対応型コロナウイルス対応として、感染症病床への準備も2つの医療機関で行われている。	地域医療機能調整会議での検討状況について 地元医療機関で検討状況について 意見としていく	○	-	-
13	公的支援力が必要な範囲	公的支援企定に手当てを要する地域	今後の公的支援については、地域の状況や社会情勢を踏まえ必要な支援を検討していく。	○	-	-
14	1-2-1 医療提供体制の供給強化が必要な範囲を特定した上で、投資対効果が見込める政策立案も含めた検討	特に手当てを要する医療機能や診療科	新型コロナウイルス感染症に対する支援を含めた今後の公的支援については、市内外の感染状況や社会情勢を踏まえ、必要な支援を検討していく。	○	-	-
15	1-2-2 運営診療等の先進的テーマや新規提供体制等の先進的テーマや新たなサービスモデルについて必要なデータを収集して、技術調査や参考事例調査を実施した上で、投資対効果が見込まれる事業について検討します。	政策的に推進されるテーマの把握	遠隔診療（オンライン診療）については、従来に難島、高島市においてテレビ電話を活用したオンライン診療やオンライン指導等に力を入れて実施されている。また、オンライン診療機器等を用いたオンライン診療やオンライン服薬指導等が新型コロナウイルス感染症による停業の一時的・季節的な取り扱いとして認められた。国において、令和年度以後の制度の変化に向けて、指針が改定された。	○	-	-
16	技術動向や導入事例の調査	国家幹線路特区として先進的な取り組みをしている自治体（兵庫県尼崎市）での取り組みを行つた。オンライン診療用のアプリの導入や、オンライン診療に対するWEB研修を受講している。	市内外で先進的に導入、取り組みをしている病院での実施時の課題や好例について共有していく。	○	-	-
17						

順番	基本方針	取組みの方向性	考えられる検討事項		重点事項	評価	今後の取組み	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
			試験事業の検討	取組み内容等						
16			遅発診療（オンライン診療）については、従来は離島、へき地の場所に限られていましたが、国家認定したオンライン診療を受ける市民への広報、試験事業実施の可能性）	国の指針の内容を踏まえ、本市で取組みの可能なオンライン診療に対する市民への広報、試験事業実施の可能性）						
17	1-3 市内医療機関と連携して、市外医療機関との連携協定の締結化等の連携強化ます。	高度急性期医療を担う市外の中核病院との連携	市内高齢者が多く入院している市外3病院（岡山大学病院、倉敷中央病院、川崎学園）と令和2年度に連携協定を締結した。協定の連携事項として、開業明医療体制の確立に関する事項、円滑な人退院に関する事項を設定している。	協定先に求める事務レベルの連携の具体案を作成し、各協定先の事務局と調整を行って、より詳細な事項についての調整を行う。	○	-				
18		市外の分娩可能施設との連携	市内医療機関から患者を紹介する市外医療機関への連携	市内高齢者が多く入院している市外3病院（岡山大学病院、倉敷中央病院、川崎学園）と令和2年度に連携協定を締結した。協定の連携事項として、開業明医療体制の確立に関する事項、円滑な人退院に関する事項を設定している。	協定先に求める事務レベルの連携の具体案を作成し、各協定先の事務局と調整を行って、より詳細な事項についての調整を行う。	-				
19			市外医療機関で入院した後、市内病院への転院や退院に向けた連携	市内高齢者が多く入院している市外3病院（岡山大学病院、倉敷中央病院、川崎学園）と令和2年度に連携協定を締結した。協定の連携事項として、開業明医療体制の確立に関する事項、円滑な人退院に関する事項を設定している。	協定先に求める事務レベルの連携の具体案を作成し、各協定先の事務局と調整を行って、より詳細な事項についての調整を行う。	-				
20			組織機能的な人事異動について	組織機能的な人事異動については、別法人であることから実施のルールは全く未実施である。医療機関連携推進会での情報共有の中で両個別事例として、医療機関連携推進会でのマッチしたことから、会員所から病院への市内医療機の二ースが医療従事者の異動が成立した。	別法人での人事異動についてはハードルが高いため、医療従事者での先進的な取り組みを研究する。	-				
21	2 医療従事者の労働環境改善	2-1 医療従事者の働き方改革等で、市内医療機関が連携して検討を進めます。	組織機能的な人事配置のあり方	組織機能的な人事異動について、医療従事者の働き方改革等で、市内医療機関が連携して検討を進めます。	働き方改革に資する取り組み状況について、定期的にフォローアップし、各病院などの取り組み状況や好事例を共有、展開を図っていく。	○				
22			業務の効率化	患者とのコミュニケーションに充てて時間を確保できるよううにする業務改善	市内病院の看護師を対象として、看護師等の労働環境改善に関する結果を各部門毎にとりまとめ、結果からごとにアノケート調査の結果を各部門毎にとりまとめ、結果の共有を行った。	重点	-			
23			労働時間の改善	医師や看護師を中心とした業務改善の見直し	市内病院の看護師を対象として、看護師等の労働環境改善に関する結果を各部門毎にとりまとめ、結果からごとにアノケート調査の結果を各部門毎にとりまとめ、結果の共有を行った。	-				
24				24時間体制の緩和措置	労働時間の改善芳賀保健STの情報交換会を年4回開催している。	働き方改革による取り組み状況について、定期的にフォローアップし、各病院などの取り組み状況や好事例を共有、展開を図っていく。	-			

項目番号	基準方針	取組みの方向性	取組み内容等	実施する際の留意点	重点事項		評価	
					今後の取組み	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
25	待機の改善	業務負担等に見合つた待機の改善	市内病院の看護師を対象とし、看護師等の労働環境改善に取り組みがなされた結果の共有を行った。	市内病院だけではなく、そのほかの対象者へも定期的に組織が見やや好条件を共有していく。	アンケートの結果を踏まえた取り組み状況について、定期的に組織が見やや好条件を共有していく。	-		
26	職住近接支援	本市の定住施策等に関する意見を市内病院へ配布している。市内病院事業（引っ越し費用等の助成事業）において、平成30年度：2件、令和2年度：3件と継続して看護師の申請があつた。	市内病院だけではなく、そのほかの対象者へも定期的に組織が見やや好条件を共有していく。	市内病院だけではなく、そのほかの対象者へも定期的に組織が見やや好条件を共有していく。	○			
27	2-2-1 所属組織や階層を超えて医療現場に貢献する機会を設けます。	職場間での交流機会の増加	市内の医師会などの職能団体や教育機関の代表者、行政関係者で構成される協議会を定期的に開催しており、協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。看護師のリーダー育成研修を含め研修会を年に10回以上開催している（令和元年度より市の委託事業として実施）。	市内団体の関係者等で構成される協議会、各研修会を継続して定期的に実施していく。	○			
28	2-2-2 医療従事者間のコミュニケーション改善	職場間での交流機会の促進	市内の医師会などの職能団体や教育機関の代表者、行政関係者で構成される協議会を定期的に開催しており、協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。看護師のリーダー育成研修を含め研修会を年に10回以上開催している（令和元年度より市の委託事業として実施）。	市内団体の関係者等で構成される協議会、各研修会を継続して定期的に実施していく。	○			
29	2-2-3 所属組織や階層を超えるスラッシュの意見を交換する機会を設けます。	多職種連携研修会	市内の医師会などの職能団体や教育機関の代表者、行政関係者で構成される協議会を定期的に開催しており、協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。看護師のリーダー育成研修を含め研修会を年に10回以上開催している（令和元年度より市の委託事業として実施）。	市内団体の関係者等で構成される協議会、各研修会を継続して定期的に実施していく。	○			
30	市内医療機関で合同の研修会	市内医療機関で合同の研修会	市内の医師会などの職能団体や教育機関の代表者、行政関係者で構成される協議会を定期的に開催しており、協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。看護師のリーダー育成研修を含め研修会を年に10回以上開催している（令和元年度より市の委託事業として実施）。	市内団体の関係者等で構成される協議会、各研修会を継続して定期的に実施していく。	○			
31	職場間での交流機会に対する医師の参加の促進	職場間での交流機会に対する医師の参加の促進	市内の医師会などの職能団体や教育機関の代表者、行政関係者で構成される協議会を定期的に開催している。看護師のリーダー育成研修を含め研修会を年に10回以上開催している（令和元年度より市の委託事業として実施）。	市内団体の関係者等で構成される協議会、各研修会を継続して定期的に実施していく。	○			
32	情報共有のルール整備	入退院における支援ルール	多職種が連携し、スマートな入退院支援を行うことを目的に市内病院へ国際支援センターの情報を共有し、コミュニケーションが図られる高齢者版情報共有書を作成しており、定期的に改定・見直しを行なながら活用している。	社会情勢に合わせて定期的に高齢者版情報共有書の見直しを行なながら活用している。	○			
33	患者の満足度向上	プライマリ・ケア領域の強化	小児領域を含めたプライマリ・ケア	平成30年度に産科医、小児科医、専門職による高齢者支援ネット（母子による支援や連携についての情報共有等を行なっている）。	本会議を定期的に開催していく。子育てサポート体制を継続していく。	○		
	2-3-1 医療従事者の能力開発・育成機会の創出	医療従事者の能力開発・育成に向け、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	市内病院の看護師を対象とし、看護師等の労働環境改善に関する意見を各病院毎にとりまとめ、高齢者との結果の共有を行つた。	令和元年度に向けて、市民アンケートを実施し満足度に応じた調査を実施する。医療従事者の能力開発・育成機会の創出に向け、市内医療機関と教育機関が連携して、いっく（学校への宿泊紹介料の取扱いや家庭などへの学生以外へのPR）	○			

34	多忙な医療従事者による余暇事負担を分散する 業務自掌や各病院との連携による組織スキーム設 立と結果の共有を行つた。	市内病院の看護師を対象とした看護師等の労働環境改善に関するアンケート調査の結果を各病院毎にとりまとめ、高梁かんごねつとで結果の共有を行つた。	職業内委員会によるオフライン研修会を各病院が開催する。 市内医療機関を対象とした看護師のリーダー育成研修会を開催し、市内医療機関アヤスマント研修などスキルアップ研修を含め研修会を年1回以上開催している。 令和元年度より市内の会員事業として実施する。新型コロナウイルス対策等の感染対策研修会を開催した。	重点	重点項目 会員や職場からの移動の負担が遅延できる 可能な研修方法についても検討する。	評価 ○	
35	学生びやノハウを学びながら支援する 共育による実践的な教育・研修の検討	高梁かんごねつとでは、市内医療機関を対象とした看護師のリーダー育成研修会を年1回以上開催している。(令和元年度より市内の会員事業として実施)市内の会員事業としては、新型コロナウイルス対策等の感染対策研修会を開催した。	吉備国際大学、岡山高等看護福祉専門学校と高梁市医師会が連携して地域で働く医師や看護師等による研修・授業を実施していく。	重点	研修内容について、需要にあわせて充実・ 可能な研修方法についても検討する。	○	
36	現場に活かせるプログラム 教育機関による平成度の実践えた研 修の取組み	教育機関による平成度の実践えた研修の取組み	吉備国際大学、「看護の魅力カイダンス」を開催し、地域で働く医師や看護師等が授業を実施している。	重点	継続して地域で働く医師や看護師等による 研修・授業を実施していく。	○	
37	2-4-1 地域医療機関における医療従事者の労働環境改 善の実現を目指すための見通しを 明確化して、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	地医会での医療従事者に 向けていた体制作り	本市の定住施策と 連携した取組み	市内病院の看護師を対象とした看護師等の労働環境改善に関するアンケート調査の結果を各病院毎にとりまとめ、高梁かんごねつとで結果の共有を行つた。	重点	市内病院に向けなく、そのほかの対象者へ 岡山県から医療従事者の移住希望者の制度 を活用する。その家族を対象として市内医 療機関をPRする。	○
38	医師確保に向けたアプローチ	人材が必要な時 期、場所、人数、 スキルの明確化	医師確保に向けたアプローチ	市内病院の看護師を対象とした看護師等の労働環境改善に関するアンケート調査の結果を各病院毎にとりまとめ、高梁かんごねつとで結果の共有を行つた。	重点	医師の確保に向けて、継続した地元卒業 医師の配置に向けて要望を行う。	○
39	医療法等改正の動向を踏まえ、高梁中央病院(平成20年度、令和元年度)、成羽病院(平成30年度、令和2年度)に継続的に配 置されている。成羽病院の代表者が参加するワークショップに各医療機関や行政の代表者が参加し、地域医療を担う医師の育成についての意見交換を行つた。医師確保への要望、新見地域医療構想調整会議等の場で、医師確保への要望、医師の育成が認定され医師の不足のトックミーティングや高梁・検討会では、目標医師数が認定され医師派遣の優先配当される医師少數区域と定められた。	岡山大学医学部地 域連携研究会 得	北陸中央病院並びに、高梁中央病院(平成20年度、令和元年度)に継続的に配 置されている。成羽病院(平成30年度、令和2年度)に継続的に配 置されている。成羽病院の代表者が参加するワークショップに各医療機関や行政の代表者が参加し、地域医療を担う医師の育成についての意見交換を行つた。医師確保への要望、新見地域医療構想調整会議等の場で、医師確保への要望、医師の育成が認定され医師の不足のトックミーティングや高梁・検討会では、目標医師数が認定され医師派遣の優先配当される医師少數区域と定められた。	重点	医師の確保に向けて、継続した地元卒業 医師の配置に向けた要望を行つていく。	○	
40	看護師確保に向けたアプローチ	市内医療機関に向 けたアプローチ	地医会が改定医師が、高梁中央病院(平成20年度、令和元年度)、成羽病院(平成30年度、令和2年度)に継続的に配 置されている。成羽病院の代表者が参加するワークショップに各医療機関や行政の代表者が参加し、地域医療を担う医師の育成についての意見交換を行つた。医師確保への要望、新見地域医療構想調整会議等の場で、医師確保への要望、医師の育成が認定され医師の不足のトックミーティングや高梁・検討会では、目標医師数が認定され医師派遣の優先配当される医師少數区域と定められた。	重点	各学校への看護師紹介については継続して実 施していくが、移住者やその家族など の潜在的な医療従事者等へもPRしていく。	○	
41	看護師確保に向けたアプローチ	吉備国際大学と連携し、「看護の魅力カイダンス」を実施し、小中学生を対象として「医療現場体験事業」を紹介してい る。市内の幅広い学生の魅 力を探る力 キラム等の取組み を紹介し、医師会フェスティバルへ連携して、看護師募集のPRや地域医療の動画を作成 事務局会議会を開催して、市内外の医療従事者を対象とした	本日の医療機関に向けて、「看護の魅力カイダンス」を実施し、小中学生を対象として「医療現場体験事業」を紹介してい る。市内の幅広い学生の魅 力を探る力 キラム等の取組み を紹介し、医師会フェスティバルへ連携して、看護師募集のPRや地域医療の動画を作成 事務局会議会を開催して、市内外の医療従事者を対象とした	重点	各学校への看護師紹介については継続して実 施していくが、移住者やその家族など の潜在的な医療従事者等へもPRしていく。	-	

課題番号	基本方針	段階別目標	段階別目標の方向性	取り扱われる結果項目	取組内容	重点事項	評価	今後の取組について	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
42	医療従事者PR	市外の医療従事者PR	吉備国際大学と連携し、大学生を対象として「看護の魅力ガイドブック」や「医療現場体験事業」を実施する。市内の幅広い学生に地域医療に関する取組みを紹介していく。	各学校への病院紹介については継続して実施していく。ながら医療従事者やその家族などに潜む的な医療従事者へもPRしていく。							
43	本市で働くことの魅力のPR	本市で働いている医療従事者のPR	吉備国際大学と連携し、大学生を対象として「看護の魅力ガイドブック」や「医療現場体験事業」を実施する。市内の幅広い学生に地域医療に関する取組みを紹介していく。	各学校への病院紹介については継続して実施していく。ながら医療従事者やその家族などに潜む的な医療従事者へもPRしていく。							
44	市内医療機関を知る機会の増加	高校生に対する講義を行っている。キャリアプランの明確化	市内4病院と連携し、吉備国際大学と連携して「医療現場体験事業」を実施している。また、市外の医療従事者会員学会を実施している。	高校生に対して方合学などで、高絆で学び、市内の医療機関で働く医療従事者などを伝えていく機会を増やしていく。							
45	奨学金制度の普及・改善	研修受入れの増加	吉備国際大学と連携し、吉備国際大学専門学校では、令和元年度から成羽病院に加え、高絆中央病院、大杉病院でも実習に参加している。また、市内の医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、奨学金制度の拡大、見直しを行った。	新型コロナウイルス感染の拡大状況等をみながら、実習受入ができる場合の代替手段を検討する。	重点	-					
46	2-4-2 市内医療機関における研修の質向上させて、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	本市で働くことの魅力のPR(再掲)	市内の看護師奨学金制度については、返還猶予の規程の見直しを行った。市内医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、奨学金制度の拡大、見直しを行った。	市内医療機関の運営金制度を支援し学生と医師会と連携し学生と医療従事者とのマッチングを行い、市内就職に結びつくような支援や定着促進のための取組みを行っていく。							
47	市内医療機関を知る機会の増加(再掲)	本市で働いている医療従事者PR	市内4病院と連携し、吉備国際大学と連携して「医療現場体験事業」を実施している。また、市外の医療従事者会員学会を実施している。	高校生に対して方合学などで、高絆で学び、市内の医療機関で働く医療従事者などを伝えていく機会を増やしていく。							
48	高齢で実現できるキャリアプランの明確化	高校生に対する講義を行っている。	吉備国際大学と連携し、吉備国際大学専門学校では、令和元年度から成羽病院に加え、高絆中央病院でも実習に参加している。また、市内の医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、奨学金制度の拡大、見直しを行った。	新型コロナウイルス感染の拡大状況等をみながり、実習受入ができる場合の代替手法を検討する。							
49	奨学金制度の普及・改善(再掲)	研修受入れの増加	市内の看護師奨学金制度については、返還猶予の規程の見直しを行った。市内医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、奨学金制度の拡大、見直しを行った。	市内医療機関の運営金制度を支援する補助事業について、医師会と連携し学生と医療従事者とのマッチングを行い、市内就職に結びつくような支援や定着促進のための取組みを行っていく。							
50	研修内容の検討	市内4病院との研修制度を把握するため、看護師確保に関するアンケート調査を実施している。	市内4病院との研修制度を把握するため、看護師確保に関するアンケート調査を実施している。高齢化とともに、市内医療機関を対象とした研修などスキルアップ研修を含め研修会を年に10回以上開催している(令和元年度より市の委託事業として実施)。	研修内容について適宜見直し・拡充を行ながり、組織診断的な研修会を定期的に開催していく。	重点	○					
51											

年度	基本方針	取組2の方針性	取組内容	実施	重点事項	評価	年度
52	研修受入環境改善	市内医療機関の看護師を対象とした、看護師等の労働環境改善に関するアンケート調査の結果を各病院にとりまとめ、高梁市が行つた。	医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、市内医療機関での累積が可能な奨学金制度の拡充、見直しを行つ。医療支援の取組みについては、県の看護協会において再教育などの取り組みが実施されている。	離職者へのPR	離職者へのPR	高梁がんごねつとして潜在在医療機関へ掲示している。	医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、市内医療機関の累積が可能な奨学金制度の拡充、見直しを行つ。医療支援の取組みについては、県の看護協会において再教育などの取り組みが実施されている。
53	離職者の把握	離職者の把握に向けた地域で一体となるシステム構築	2時間対応の継続措置	2時間対応の継続措置	2時間対応の継続措置	高梁がんごねつとして潜在在医療機関へ掲示している。	医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、市内医療機関の累積が可能な奨学金制度の拡充、見直しを行つ。医療支援の取組みについては、県の看護協会において再教育などの取り組みが実施されている。
54	労働時間の改善	(再現)	その他他の復帰支援の検討	その他他の復帰支援の検討	2時間対応の継続措置	高梁がんごねつとして潜在在医療機関へ掲示している。	医療機関が実施する奨学金制度への補助事業を新たに策定し、市内医療機関の累積が可能な奨学金制度の拡充、見直しを行つ。医療支援の取組みについては、県の看護協会において再教育などの取り組みが実施されている。
55	離職者の把握		市内の分院施設の設置	市内の分院施設の設置	2時間対応の継続措置	高梁がんごねつとして潜在在医療機関へ掲示している。	市内の分院施設の設置は、人材確保の面から困難な状況ですが、妊娠期健診等の周産期医療は市内クリニックで提供されています。
56	離職者の把握		市内の医療機関が担う人材の育成・確保	市内の医療機関が担う人材の育成・確保	高梁がんごねつとして潜在在医療機関へ掲示している。	高梁がんごねつとして潜在在医療機関へ掲示している。	市内の医療機関が担う人材の育成・確保
57	3-1-3 市政の方針や市人口ビジョン	3-1-3 市政の方針や市人口ビジョンを踏まえた現実的な取組みについて開拓的視点で検討	3-1-3 市政の方針や市人口ビジョンを踏まえた現実的な取組みについて開拓的視点で検討	3-1-3 市政の方針や市人口ビジョンを踏まえた現実的な取組みについて開拓的視点で検討	高梁市看護師等奨学金では、助産師も対象としているが、現状は希望者はいない。	高梁市看護師等奨学金では、助産師も対象としているが、現状は希望者はいない。	医師の確保に向けた取組を進めています。
58	離職者の把握		産科医確保に向けた検討	産科医確保に向けた検討	医師の確保に向けた取組を進めています。	医師の確保に向けた取組を進めています。	医師の確保に向けた取組を進めています。
59	離職者の把握		医療機関での周産期医療を行う医療機関は一つであるため、周産期医療を担う人材の出向・派遣に向けた取組は検討していない。	医療機関での周産期医療を担う人材の出向・派遣に向けた取組は検討していない。	周産期医療を担当する人材だけでなく、別法人での出向、派遣等について、医療従事者の派遣について、現状の5名の市内医療機関の就業に向けたアプローチを行つていく。	周産期医療を担当する人材だけでなく、別法人での出向、派遣等について、医療従事者の派遣について、現状の5名の市内医療機関の就業に向けたアプローチを行つていく。	周産期医療を担当する人材だけでなく、別法人での出向、派遣等について、医療従事者の派遣について、現状の5名の市内医療機関の就業に向けたアプローチを行つていく。
60							

番号	議題	議題の方向性	議題がかかるべき組合	議題内容等	重点項目	評価
61	市外医療機関との連携	連絡体制の強化	外連携部会	分娩時の搬送では、県内で初めてママ・サポート119という消防車と連携したシステムを整備しており、ほどんどの妊婦さんが登録されている。(R4.1~R4.1.3)の期間で登録件数は971名で、救急搬送件数は59件。附属中央病院、川崎学園)と令和2年度に連携協定を締結し、協定の実施事項として、周産期医療体制の確立に関する事項を設定した。	R4(2022)	R5(2023)
62	関連分野との連携	出産サポートによる後割分担	出産サポートの自宅生	分娩後の母親をサポートするため、産婦健診、産後マタニティ事業、産後ヘルパーサービスを実施している。(R4.1~R4.1.3)の期間で登録件数は971名で、母子訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)で、担当保健師が訪問し、子育てに関する相談や子育て支援に関するサービスを紹介している。	今後の取り組みを進めていくこととともに、市外病院などの包括協定について、各協定先の事務局と調整を行い、より詳細な事項についての調整を行う。	-
63	関連分野との連携	出産直後のサポート	出産に関する相談	乳幼児親子や妊娠さんの交流の場である子育て支援センターの設置、ママサポートによる保健師による相談や保健師・栄養士による定期的な育児相談体制を整備している。	継続してサポートの取り組みを進めていくこととともに、子育て世代以外の層へも取組みの周知を行っていく。	-
64	関連分野との連携	出産体制整備	市内病院での小児医療(救急)の実態を調査し、時間別の救急件数の現状を踏まえて、小児診療時間の要請などを検討している。	定期的に市内病院のがん医療(救急)の状況を把握・共有を行っていき、小児診療時間についても定期的に検討していく。	○	-
65	小児医療を担う入材の育成・確保	小児科医の育成・確保	小児科医の育成・確保	医師確保にあたり、県の地域医師制度のほかに、市独自の医学生選抜制度を設けており、現状2名が臨床研修、3名が希望者はいない。令和3年度からは、令和4年度から小児科を専攻している地幹科医師の配置が予定されている。	医師の確保に向けて、継続した地域医療支援医師の配置と連携についても検討していく。市内医療機関の前業に向けたアプローチを行っていく。	-
66	関連分野との連携	小児医療を担うプライマリ・ケア医の強化(専門医)	小児医療を含めた相談体制の整備	平成30年度に産科医、小児科医、専門職による高梁版ネウボラ通絡会(母子保健連絡会)が立ち上がりたい事例などの情報共有等を行っている。	本会議を定期的に開催していく、市内産科・小児科医など連携した出産・子育てサポート体制を継続していく。	○
67	関連分野との連携	子育てにかかる相談体制の整備	子育てにかかる相談体制	高梁市子育て世代包括支援センター事業(たかはし医療福祉)を通じて、妊娠・出産・育児(例えば、ママサガ医師や妊娠の相談や保健師、栄養士による定期的な育児相談、母乳育児相談などの相談体制を整備している)。また母子支援に関する関係者の取り組み状況を共有し、「妊娠期から子育てまでの支援をめざす連携育児の早期把握と支援強化、多機能多職種の連携のための体制づくり」を目指して会議を行っている。	継続してサポートの取り組みを進めていくこととともに、子育て世代以外の層へも取組みの周知を行っていく。	-
68	出産・子育てに関するサポート	出産・子育てに関するサポートや利用できるサービスのPR	県外児童全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)	県外児童全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)で、担当保健師が訪問し、子育てに関する相談や子育て支援に関するサービスを紹介している。子育て中の方が活用できる「カイドック」を作成し、出生や転入のあつた子育て世帯に配布している。	「たかはし子育てカイドック」の刷新により、「たかはし市子育て支援施設会議」について姉妹市に周知していくとともに、妊娠の安心・安全のための取組みを、市フェアハイ世代や広報誌、行政が送付等を通じて幅広い世代の市民の方にPRしていく。	○
69	4 地域での生活基盤の整備化	4-1-1 地域包括ケアシステム構築を立てる	医療機関が行うこととの検討	地域での生活基盤の整備化を立てる。地域ににおける意見を聞き、医療従事者が反映している現状に合わせて、医療従事者から、地域に寄り添うべき役割を担うべきサービスのPR	継続して市内団体の関係者等で構成される連絡会で定期的に実施していく。医療分野と介護・福祉分野とで、安心・安全のための取組みを、市フェアハイ世代の相互理解を深めていく。	○

令和5年度医療本部方針に基づく取り組みの方向性	実施する取り組み	実施する取り組みの目的	実施する取り組みの内容	実施する取り組みの評価	実施する取り組みの予定期間
70	医療部門における協議会開催・情報交換会開催等 医療機関と連携して取組みの検討	医療部門における協議会開催・情報交換会開催等 医療機関と連携して取組みの検討	高槻市在宅医療・介護連携協議会では、年に2回程度、在宅医療に關係する専門職種が職種別に研修を企画・実施している。	○	R4(2023) - R5(2024)
71	専門学科の学生による地域貢献活動	専門学科の学生による地域貢献活動	吉備国際大学では、介護予防事業、市内の小中学生を対象とした取組みを実施している。	○	R4(2022) - R5(2023)
72	やまぼうしの活用	やまぼうしの活用	令和2年12月末現在で273名の方が登録されています。加入料を無償で貸出している。令和2年度には著作説明会等を2回開催し、計75名参加があった。	○	R4(2022) - R5(2023)
73	退院時カンファレンスへの参加	退院時カンファレンスへの参加	ケアキャビネットなどWEB会議ができる環境が整備されれていることなどが可能となつておらず、WEB会議を活用した事例は一部でできている。	○	R4(2022) - R5(2023)
74	職場間での交流機会の増加（再掲）	職場間での交流機会の増加（再掲）	市内の医師会などの講能団体や教育機関の代表者、行政関係者で構成される協議会を開催している。協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。看護師のリーダー育成研修のほか、フィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を含め研修会を年に10回以上開催している（令和元年度より市の委託事業として実施）。	○	R4(2022) - R5(2023)
75	多職種連携研修会	多職種連携研修会	市内の医師会などの講能団体や教育機関の代表者、行政関係者で構成される協議会を開催しており、協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。看護師のリーダー育成研修のほか、フィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を含め研修会を年に10回以上開催している（令和元年度より市の委託事業として実施）。	○	R4(2022) - R5(2023)
76	市内医療機関で合同の研修会	市内医療機関で合同の研修会	市内の医師会などの講能団体や教育機関の代表者、行政関係者で構成される協議会を開催している。その中にて、病院、病院が所有する高槻かんこねね連携研修会を開催している。看護師のリーダー育成研修のほか、フィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を含め研修会を年に10回以上開催している（令和元年度より市の委託事業として実施）。	○	R4(2022) - R5(2023)
77	情報共有のルーラー	情報共有のルーラー	多職種が連携し、スマートな入退院支援を行なうことを目的に市内に入院患者情報を共有し、コミュニケーション機能を有する高槻市内医療機関を行なっている。その中で、病院が所有する高槻かんこねね連携研修会を開催している。看護師のリーダー育成研修のほか、フィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を含め研修会を年に10回以上開催している（令和元年度より市の委託事業として実施）。	○	R4(2022) - R5(2023)
78	4-1-2 介護分野・交通分野などによる連携し、医療機関利用者の利便性向上に向けた検討します。	4-1-2 介護分野・交通分野などによる連携し、医療機関利用者の利便性向上に向けた検討します。	第2次高槻市地域公共交通構造改訂計画（令和2年3月策定）策定にあたっては、運院に関するヒアリングを行なった。市民や市内医療機関から、医療機関への連携手段の確保について検討することとしている。	○	R4(2022) - R5(2023)

番号	基本方針・取組みの方針	主なられる施策事項	取組み内容	重点事項	評価	年度
79	公共交通機関の方針	バスの時刻と診療時間の調整	市内の病院の地域連携室において、通院・入院患者の交通の相談を受け、バスの時刻や乗合タクシーの予約等の支援を行う。	今後の取組み 経営して通院・入院患者の交通の相談を受け、バスの時刻や乗合タクシーの予約等の支援を行う。	○	R4(2022)
80	4-1-3 地域包摂ケアシステム構築に関する実証事業	在宅医療等の拠点に寄り添う人質等の拠点に寄り添う医療等が連携して検討します。	高齢市社会福祉協議会や市では、高齢者福祉事業の概要を取りまとめている。	在宅療養中の生活支援 入院中の生活支援	在宅医療、入院中に特化した事業についてとりまとめを行う。	RS(2023)
81	地図での自立した生活分野の整備化	システィム構築分野の開拓化	高齢市社会福祉協議会や市では、高齢者福祉事業の概要を取りまとめている。	-	-	R5(2024)
82	急救サポート体制の充実	在宅医療を担う人質等の拠点に寄り添う医療等が連携して検討します。	独自の高齢者を対象に平成22年度から救急医療情報キットを配布している。 これまでに延べ5,924名（令和4年1月末）に配付している。 市の民間企業も含めたAEDの設置場所（市内175箇所）を市のウェブサイトで掲載、行政送などで周知を行っている。	新型コロナの状況や市内医療機関の空床状況に合わせたレスバイト入院の受け入れについて引き続き行っていく。	○	R6(2022)
83	家族へのサポート体制の充実	在宅医療等の拠点に寄り添う医療等が連携して検討します。	在宅用による在宅医療患者の短期入院	市内民間病院ではレスバイト入院の受け入れについては、在宅医に特化してはいない。	○	RS(2023)
84	医療従事者の確保	在宅医の確保	市内医療機関が実施する奨学金制度を設けているが、在宅医に特化してはいない。	医師の確保に向けて、組織した地団体や医師の配置に向けた要望を行っていく。 医師の配置の実現には、我が5名の市内医療機関の就業に向けたアプローチを行っていく。	-	R7(2024)
85	訪問看護師の確保	訪問看護師の確保	市内医療機関が実施する奨学金制度を新たに策定し、奨学金制度の拡充、肩書きを行っているが、訪問看護師に特化してはない。	現行の奨学金制度を維持しながら、看護師等の確保に努めしていく。	○	RS(2023)
86	医療従事者等の役割の見直し	研修等による在宅医療の同知啓発	高齢市在宅医療・介護連携推進協議会では、年に2回程度、在宅医療に関係する専門講座が職種別に研修を企画・実施している。	研修内容について、需要にあわせて充実・見直しを行いながら、組織横断的な研修会を定期的に開催していく。	○	R8(2024)
87			看護師に求められる看護師の変化（医療行為の変化） 多職種連携研修会において、令和元年度に、患者の高齢決定を引き出すコミュニケーションスキル（参加者71名）、令和2年度に、小規模多機能型居宅介護等の種類や特徴についての研修を行った（リモート開催：参加者86名）。	研修内容について、需要にあわせて充実・見直しを定期的に開催していく。	○	R9(2025)

小冊子 88	考え方される候診場所の方向性 在宅医療の問題多 門番をとる講師会では在宅医療コーディネーターを配置し多職種連携を強化され、高齢医師会では高齢かんごねつどが設置され、医療介護連携コールセンターが配置されており、市内医療機関、介護施設対象とする研修が実施されている。	取扱内容等 川上診療所では在宅医療コーディネーターを配置し多職種連携を強化されている。高齢医師会では高齢かんごねつどが設置され、医療介護連携コールセンターが配置されており、市内医療機関、介護施設対象とする研修が実施されている。	重点項目 部面 医療介護連携コールセンターを中心とした研修会の取組みを継続していく。	今後の取組み 医療介護連携コールセンターを中心とした研修会の取組みを継続していく。	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
89	プライマリ・ケア 患者本人の癒愈決定が治療前に医療者と話し合ふ、ACPへの取り組み、在宅看取りへの対応等の検討	多職種連携研修会において、令和元年度にACPの正しい理解と多職種連携研修会としての取り方にについての研修を行った（参加者69名）。県医師会主催のACP研修会を講師に岡山大学松岡頼治先生をお迎えし開催した（参加者77名）。	○	高槻市版CPツールを作成、適用し、研修会等でACPの普及啓発を図っていく。	○	○	○
90	在宅医療の市内医療機関が取り組むタイプ 市内医療機関が効率的に取り組むための方策	令和2年度より、情報通信機器等を用いたオンライン診療やオンライン診療指導等が新型コロナウイルス感染症の感染拡大による一時的な、専門的な取り扱いとして認められており、全国においては、令和2年度以降の制度の見直しに向けて、指針が改定されました。遠隔診療（オンライン診療）については、在宅医療を効率的に取り組むための手段と考えられる。高槻医師会では、オンライン診療システムを導入している。	○	国際的指針の内容を踏まえたうえで、医療機関が取り組むべきことの実現可能性について検討する。	○	○	○
91	地域医療の実情 市内医療機関で対応可能な疾患の件数	本市の優れた医療従事者のPR	令和2年度より、情報通信機器等が新型コロナウイルス感染症の感染拡大による一時的な、専門的な取り扱いとして認められており、全国においては、令和2年度以降の制度の見直しに向けて、指針が改定されました。遠隔診療（オンライン診療）については、在宅医療を効率的に取り組むための手段と考えられる。高槻医師会では、オンライン診療システムを導入している。	高槻市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能な医療情報を周知している。在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種による講演では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療について医療スタッフが紹介。（平成30年度：高槻中央病院、令和元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘HP）	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報紙を発行する。	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報紙を発行する。	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報紙を発行する。
92	4-2-1 住民自縦に立った説明の強化	地域医療の実情 市内医療機関で対応可能な疾患の件数	高槻医師会で看護師募集のCMを作成しHP等に掲載している。第1部では、在宅医療や市内で可能な医療情報を周知している。在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種による講演では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療について医療スタッフが紹介。（平成30年度：高槻中央病院、令和元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘HP）	高槻市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能な医療情報を周知している。在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種による講演では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療について医療スタッフが紹介。（平成30年度：高槻中央病院、令和元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘HP）	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報紙を発行する。	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報紙を発行する。	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報紙を発行する。
93	医療のあり方 コントラベルの抑制	かかりつけ医の定期健診	高槻市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能な医療情報を周知している。第1部では、在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種による講演では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療について医療スタッフが紹介。（平成30年度：高槻中央病院、令和元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘HP）	高槻市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能な医療情報を周知している。在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種による講演では、市内の病院紹介として、病院で対応可能な医療について医療スタッフが紹介。（平成30年度：高槻中央病院、令和元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘HP）	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報紙を発行する。	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報紙を発行する。	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報紙を発行する。
94							

番号	基本方針・取組みの方向性	施策	取り組み内容等	今後の取組み	評価	重点事項
95	在宅医療普及・啓発	人生の最終段階における医療生活の普及・啓発	高槻市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能な公医療を周知している。 第1部では、在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種による寸劇、市内の病院紹介として、病院で可能な医療について講師スタッフが紹介。（平成30年度：高槻中央病院、令和元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘HP）	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報を行う。	R4(2022)	R5(2023)
96	市内医療機関の受けるべき役割	市内の医療機関で受けられる医療についての適切な普及啓発	高槻市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能な公医療を周知している。 第1部では、在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種による寸劇、市内の病院紹介として、病院で可能な医療について講師スタッフが紹介。（平成30年度：高槻中央病院、令和元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘HP）	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を組み、市民に向けて広報を行う。	R4(2022)	R5(2023)
97	市民主導医療体制の検討	東院主導医など在宅医の検討	（一社）高槻医師会において、訪問医療部の会が立ち上がり、訪問診療を始め、二人主治医制等の話し合いが行われている。	△	△	医療機関間、多職種でリアルタイムに情報共有ができるケーブルテレビ等の利用者数の向上を図る。
98	市民参加型の場	医師が住民と直接対話する場の拡大・展開	高槻市医療・介護市民公開講座を開催し、在宅医療や市内で可能な公医療を周知している。 第1部では、在宅医療の普及啓発として、在宅医療を支える職種による寸劇、市内の病院紹介として、病院で可能な医療について講師スタッフが紹介。（平成30年度：高槻中央病院、令和元年度：大杉病院、令和2年度：たいようの丘HP）	新型コロナウイルス感染の拡大状況等をみんなから、ケーブルテレビ等を活用し、市民参加型の場を設けていく。	○	
99	市や一般社団法人高槻医師会ホームページの活用		高槻市ウェブサイトで「高槻2025～地域医療の高槻マテル横浜」を実現するための検討とアクション～として、毎年度までの実現に向けた10年の検討を実施している。 広報計画を策定し、市庁報紙や行政放送において、定期的に市内の医療について情報発信を実施している。 高槻医師会において、DSD「高槻の医療」を作製した。	高槻紙で医療計画に関するこれまでの取組みについての特集を市民に向けて広報を行う。	○	重点
100						